

「火山がつくる地形(14)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

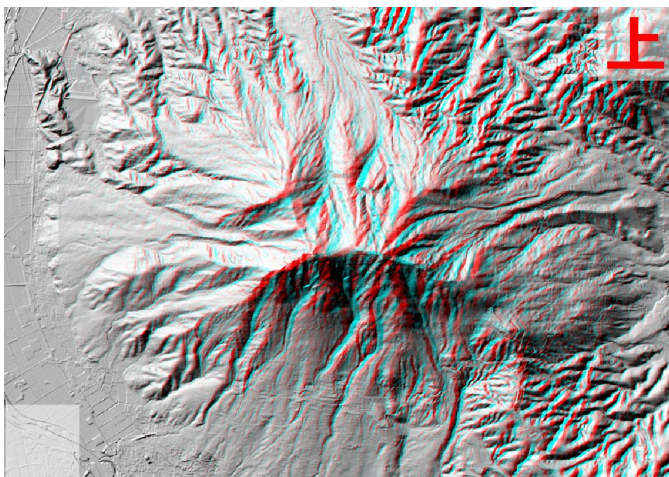
田中 千尋 Chihiro Tanaka

④筑波山(877m)

今回の火山の学習では「火山のつくった地形の特徴を理解する」ということを大切にしました。提示したさまざまな地形の中に、「火山由来ではない地形」もいくつか入れておいた。その一つが「筑波山」である。



関東平野の北東縁に位置する筑波山は、標高こそ877mと低いが、独立峰であることもあって、遠くからでもよく見える。東京都内からでも高層ビルの窓から、視程の良い日なら確認できるし、富士山の山頂からも見える日がある。



筑波山は「古い火山」と誤解されることが多いが、これは誤りで、火山とは言えない。母体である花崗岩が浸食された地形なので、広い意味では火山(火成岩)とも言えるが、噴火を伴った活動の痕跡はないので、筑波山は単なる「山」である。2つの山頂を持つ「双耳峰」なので、アナグリフの立体図を見ても「古い火

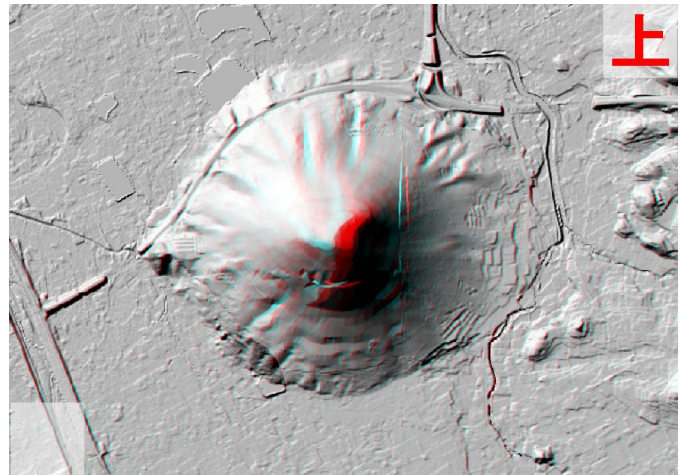
山」のようにも見える。しかし、寄生火山(スコリア丘や爆裂火口)が一つもなく、火山である証拠に乏しい。南側の谷が、古い火口壁が崩壊した「火口瀬」のようにも見えるので、子どもたちもかなり論議していた山である。

⑤飯野山(422m)

香川県にある「飯野山」といっても、知名度は低い。「讃岐富士」といえば有名な山とわかる。写真は北麓の「蓮池(溜池)」から見た飯野山である。



讃岐富士の名の通り、非常に端正な山容で、どう見ても火山としか思えない。しかしこれは火山ではなく、周囲の複数の川が浸食をした結果、残った「ビュート」と呼ばれる地形だ。



子どもたちは面白い読図をしていた。

- ①「浸食された谷間がほとんどないので、もし火山だったらつい最近噴火したはず」
- ②「それなのに、麓に高速道路や田んぼや町がある」
- ③「最近噴火した火山なら近くに道はないし、人が住んでいるはずがない」
- ④「従って、飯野山は火山ではない」

興味深い考察と言える。これは子どもなりに正しい読図と言えるだろう。